

## A年 聖金曜日

## 主日のテーマ 「成し遂げられた」

## 特禱

全能の神よ、あなたの家族であるわたしたちを、慈しみのうちに見守ってください。主イエス・キリストは、この家族を救うために甘んじて裏切られ、罪人の手に渡され、十字架の死を遂げられました。父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられる主イエス・キリストに栄光がありますように。 **アーメン**

## 旧約聖書 イザヤ書 52:13-53:12

## 詩編 第 22:1-11 編

## 使徒書 ヘブライ人への手紙 10:1-25

## 福音書 ヨハネによる福音書 19:1-37

<sup>1</sup>そこで、ピラトはイエスを捕らえ、鞭で打たせた。<sup>2</sup>兵士たちは茨で冠を編んでイエスの頭に載せ、紫の服をまとわせ、<sup>3</sup>そばにやって来ては、「ユダヤ人の王、万歳」と言って、平手で打った。<sup>4</sup>ピラトはまた出て来て、言った。「見よ、あの男をあなたたちのところへ引き出そう。そうすれば、わたしが彼に何の罪も見いだせないわけが分かるだろう。」<sup>5</sup>イエスは茨の冠をかぶり、紫の服を着けて出て来られた。ピラトは、「見よ、この男だ」と言った。<sup>6</sup>祭司長たちや下役たちは、イエスを見ると、「十字架につけろ。十字架につけろ」と叫んだ。ピラトは言った。「あなたたちが引き取って、十字架につけるがよい。わたしはこの男に罪を見いだせない。」<sup>7</sup>ユダヤ人たちは答えた。「わたしたちには律法があります。律法によれば、この男は死罪に当たります。神の子と自称したからです。」

<sup>8</sup>ピラトは、この言葉を聞いてますます恐れ、<sup>9</sup>再び総督官邸の中に入って、「お前はどこから来たのか」とイエスに言った。しかし、イエスは答えようとされなかった。<sup>10</sup>そこで、ピラトは言った。「わたしに答えないのか。お前を釈放する権限も、十字架につける権限も、このわたしにあることを知らないのか。」<sup>11</sup>イエスは答えられた。「神から与えられていなければ、わたしに対して何の権限もないはずだ。だから、わたしをあなたに引き渡した者の罪はもっと重い。」<sup>12</sup>そこで、ピラトはイエスを釈放しようとした。しかし、ユダヤ人たちは叫んだ。「もし、この男を釈放するなら、あなたは皇帝の友ではない。王と自称する者は皆、皇帝に背いています。」

<sup>13</sup>ピラトは、これらの言葉を聞くと、イエスを外に連れ出し、ヘブライ語でガバタ、すなわち「敷石」という場所で、裁判の席に着かせた。<sup>14</sup>それは過越祭の準備の日の、正午ごろであった。ピラトがユダヤ人たちに、「見よ、あなたたちの王だ」と言うと、<sup>15</sup>彼らは叫んだ。「殺せ。殺せ。十字架につけろ。」ピラトが、「あなたたちの王をわたしが十字架につけるのか」と言うと、祭司長たちは、「わたしたちには、皇帝のほかに王はありません」と答えた。<sup>16</sup>そこで、ピラトは、十字架につけるために、イエスを彼らに引き渡した。

こうして、彼らはイエスを引き取った。<sup>17</sup>イエスは、自ら十字架を背負い、いわゆる「されこうべの場所」、すなわちヘブライ語でゴルゴタという所へ向かわれた。<sup>18</sup>そこで、彼らはイエスを十字架につけた。また、イエスと一緒にほかの二人をも、イエスを真ん中にして両側に、十字架につけた。<sup>19</sup>ピラトは罪状書きを書いて、十字架の上に掛けた。それには、「ナザレのイエス、ユダヤ人の王」と書いてあった。<sup>20</sup>イエスが十字架につけられた場所は都に近かったので、多くのユダヤ人がその罪状書きを読んだ。それは、ヘブライ語、ラテン語、ギリシア語で書かれていた。<sup>21</sup>ユダヤ人の祭司長たちがピラトに、「『ユダヤ人の王』と書かず、『この男は「ユダヤ人の王」と自称した』と書いてください」と言った。<sup>22</sup>しかし、ピラトは、「わたしが書いたものは、書いたままにしておけ」と答えた。

<sup>23</sup>兵士たちは、イエスを十字架につけてから、その服を取り、四つに分け、各自に一つずつ渡すようにした。下着も取ってみたが、それには縫い目がなく、上から下まで一枚織りであった。<sup>24</sup>そこで、「これは裂かないで、だれのものになるか、くじ引きで決めよう」と話し合った。それは、

「彼らはわたしの服を分け合い、  
わたしの衣服のことでくじを引いた」

という聖書の言葉が実現するためであった。兵士たちはこのとおりにしたのである。<sup>25</sup>イエスの十字架のそばには、その母と母の姉妹、クロパの妻マリアとマグダラのマリアとが立っていた。<sup>26</sup>イエスは、母とそのそばにいる愛する弟子とを見て、母に、「婦人よ、御覧なさい。あなたの子です」と言われた。<sup>27</sup>それから弟子に言われた。「見なさい。あなたの母です。」そのときから、この弟子はイエスの母を自分の家に引き取った。

<sup>28</sup>この後、イエスは、すべてのことが今や成し遂げられたのを知り、「渴く」と言われた。こうして、聖書の言葉が実現した。<sup>29</sup>そこには、酸いぶどう酒を満たした器が置いてあった。人々は、このぶどう酒をいっぱい含ませた海綿をヒソプに付け、イエスの口もとに差し出した。<sup>30</sup>イエスは、このぶどう酒を受けると、「成し遂げられた」と言い、頭を垂れて息を引き取られた。

<sup>31</sup>その日は準備の日で、翌日は特別の安息日であったので、ユダヤ人たちは、安息日に遺体を十字架の上に残しておかないために、足を折って取り降ろすように、ピラトに願い出た。<sup>32</sup>そこで、兵士たちが来て、イエスと一緒に十字架につけられた最初の男と、もう一人の男との足を折った。<sup>33</sup>イエスのところに来てみると、既に死んでおられたので、その足は折らなかった。<sup>34</sup>しかし、兵士の一人が槍でイエスのわき腹を刺した。すると、すぐ血と水とが流れ出した。<sup>35</sup>それを目撃した者が証ししており、その証しは真実である。その者は、あなたがたにも信じさせるために、自分が真実を語っていることを知っている。<sup>36</sup>これらのことが起こったのは、「その骨は一つも砕かれない」という聖書の言葉が実現するためであった。<sup>37</sup>また、聖書の別の所に、「彼らは、自分たちの突き刺した者を見る」とも書いてある。

※福音書は以下より引用しました。

聖書 新共同訳：(c)共同訳聖書実行委員会

Executive Committee of The Common Bible Translation

(c)日本聖書協会

Japan Bible Society , Tokyo 1987,1988